



NADA DANE
Vol.4 2025

あな

はじめに

旅先で海に沈む夕陽を眺めるように、古い街並みを味わうように、少し暮らしの速度を緩めると、なにげなく見ている日常風景が特別な瞬間に感じられます。それぞれのシーンは見慣れていても「ふつう」だけど、歴史や自然、文化など、その場所のもつ「らしさ」とつながると、世界中のどこにもないここだけの風景が立ち上がってきます。当たり前の方こうに見えてくるもうひとつの景色。

「なだだね」は、見過ごしがちな、あるいは見過ごされている灘のまちの風景を、いろんな視点で眺めながら「ふつうの風景」を味わうフリーペーパーです。

今回のテーマは「穴」。穴の方こうに見える景色をご紹介します。



あな

穴孔坑

くぼんだ所。または、方こうまで突き抜けた所。
ある一点を中心として、へこんだ所。穴ぼこ。
丸く・裏（奥）までずっとくり抜いた所や部分。
他に知られず、安心して隠れ住む場所。

自然が開けた穴

水や風や生き物が開けた穴。のぞいた先に見えるのは人知の及ばない自然の営み。



龍神の寝床

摩耶山頂にある三角点の近くに細長い楕円形のくぼみがある。巨木や大きな岩の下にあるので、おそらく山頂の水が湧き出していた場所ではないだろうか。底には石像が祀られ、摩耶山に棲む水の神である龍神にちなんで「龍神の寝床」と名付けられた。

[摩耶山町・MAP ①]



鳥が開けた穴

摩耶山の登山道を歩いていると、「コンコンコン」とコゲラ（キツキの一種）のリズミカルな音が聞こえることがある。街なかではきくことのできない音。掬星台の桜に直径5cmくらいの小さな穴がある。コゲラより少し大きなアオゲラの仕事だろうか。

[摩耶山町・MAP ②]

交差する穴

街に人が増え、道路や線路が張り巡らされる。それらが交差するところには穴が開けられる。



原田拱橋

阪急神戸本線は、1920年(大正9)に梅田 - 上筒井間で営業を開始、原田拱橋は1936年(昭和11)に神戸三宮への乗り入れを行った際に造られたアーチ橋。阪急の神戸市内線高架橋は、2020年(令和2)に土木学会選奨土木遺産に認定された。道路と斜交しているためねじれて見えるのが特徴で、地域のランドマークになっている。土木構造物だが、細かい部分まで行き届いた配慮が見られる。

[城内通・MAP③]



石屋川トンネル跡

石屋川は、水害を予防するため、川床の土砂を掘って岸に積み上げて高い丈夫な土堤を築造した。そのため川床が平地よりも高い天井川になった。1874年(明治7)大阪神戸間に鉄道が敷設、石屋川にはイギリス人技術者の設計・監督によって川の下を通る日本初の鉄道トンネルが造られた。鉄道が高架になってからは、川の上をまたぐようになり、現在は人や車が川の下を通るようになった。

[大和町・MAP④]

うが 山を穿つ穴

かつては山は歩いて越えるものであった。やがて穴があげられ、鉄道や車で越えるようになった。



高雄山隧道^{づいどう}

1925年(大正14)に開業した摩耶ケーブルは今年100周年を迎えた。中間地点近くにある高雄山隧道は現存する鉄道トンネルとしては灘区最古。トンネルの山側入り口付近には布引断層が横切っている。1944年(昭和19)に戦時中の不要不急路線として線路が撤去され運休。1955年(昭和30)に観光資源開発の一環として復活。戦後はケーブル下駅でわらじに履き替え、軌道横を歩いて天上寺に向かう参詣客もいたという。
[摩耶山・MAP ⑤]

六甲山トンネル

1967年(昭和42)に灘区と北神地区を一直線に結ぶ、全長約3000mのトンネルが開通。神戸の南北交通の動脈として重要な役割を果たしている。1968年(昭和43)三宮と有馬を結ぶ市バス六甲トンネル線が運行を開始。開通前の1966年(昭和41)には特撮テレビ番組「ウルトラセブン」のロケが行われ、劇中では富士山と六甲山の防衛センターを結ぶ「シークレットハイウェイルート9」として登場した。
[六甲山町・MAP ⑥]



山と海をつなぐ穴

山に湧き出した水は海へと流れ下りる。市街地ではひっそりと地下を流れていく。



東味泥川橋梁^{ひがしりょう}

観音寺川（東味泥川）はJR 摩耶駅の東で線路の下をくぐる。トンネルのような水路は鉄道から見ると橋ということになる。残念ながら地上からは見えないが、大阪～神戸間に鉄道が敷設された時のレンガ造のアーチが残る貴重な地下遺構。（立入不可）

【灘南通・MAP ⑦】



貧乏川終点

摩耶山から流れる小河川「貧乏川」は市街地で暗渠になり、都賀川の上流、柚谷川と合流する。合流点の穴の上には神戸市の終点杭が設置されている。貧乏川は神戸市が管理する準用河川で、名前の由来は定かではないが、水が少なかったからというのが定説。

【篠原本町・MAP ⑧】

暮らしの穴

街に人が増えるにしたがって、街にはさまざまな穴が開けられていった。水道、下水、ガスなど暮らしを支えるインフラは街と穴でつながっている。



神戸市水道局新篠原接合井^{せつごうせい}

接合井は下流の送水管の水圧を安定させるために上流に設けられた水道施設。住宅街にこつ然とあらわれる新篠原接合井は、阪神水道企業団から購入した水道水を市街地西部の送水トンネルまで送る六甲山中の送水トンネル（4 拡送水トンネル）につながっている。[篠原北町・MAP ⑨]



マンホール・鉄蓋

マンホール（人孔）は人が入って点検や作業を行う進入口。それ以外は鉄蓋と呼ぶ。

上左：阪神水道企業団 [篠原本町・MAP ⑩]

上中：河川 [篠原本町・MAP ⑪]

上右：工業用水 [將軍通・MAP ⑫]

下左：神戸製鋼神戸製鉄所から酒蔵に熱源として送られていた蒸気管 [新在家南町・MAP ⑬]

下中：大阪ガスの旧社章 [水道筋・MAP ⑭]

下右：旧通信省 [水道筋・MAP ⑮]

命を守った穴

太平洋戦争中に戦火をのがれるため、人々が逃げ込んだ穴には歴史の記憶が閉じ込められている。



上野道防空壕跡

防空壕は空襲から避難するために山の斜面や民家の庭、床下に造られたトンネル状の施設。戦争を語り継ぐ貴重な遺構であるが、近年失われつつある。令和5年の調査で灘区には3基（うち一つは令和6年に消滅）が残っていることがわかった。神戸高校の北から摩耶山に向かう登山道の斜面に防空壕の跡がひっそりと残っている。
[城の下通・MAP ⑯]



狼郡架道橋

JRの下をくぐる歩行者専用の通路。以前はモルタルでおおわれていたが、JR 摩耶駅付近のマンション建設にともない南側入り口に4連アーチのレンガ造の断面が現れた。太平洋戦争中の神戸大空襲時は戦火をのがれるため多くの人が逃げ込んだと伝えられている。
[灘南通・MAP ⑰]

知られざる穴

砂浜だった灘の海岸部は、明治に入って工場が建てられ、港が整備されていった。その過程で生まれ、今はその役目を終えた穴。



旧小泉製麻工場地下道

1890年(明治23)に日本初のジュート紡績工場が建設された。1905年(明治38) 寄宿舎と工場間に阪神電鉄が開業、鉄道事故が増えた。従業員を守るため、国道43号真下に長さ50mの従業員専用地下道が造られた。現在は役目を終え埋められている。(見学不可)

[新在家南町・MAP ⑱]



鶴甲ベルトコンベヤトンネル

1961年(昭和36) 鶴甲山から海岸まで約3キロメートルの地下トンネルを掘り、8つのベルトコンベヤーでつないだ。約5年稼働し、鶴甲山を削った土砂で摩耶埠頭などを造成した。コンベヤ撤去後は電線やガス管が通る共同溝に、山岳トンネル部の一部は神戸大学の実験施設に転用されている。

(見学不可・特別な許可を得て撮影)

[六甲台町・MAP ⑲]

学び舎の穴

学校の思い出というと、意外と細かい記憶だったりする。
机のキズや壁や床のシミ、そして穴。



美野丘小学校らせん階段天井

地域のシンボルとして街を見下ろす、美野丘小学校の円形校舎は1956年（昭和31）に摩耶小学校分校として建設。狭い敷地に建てることができ、採光性にも優れる円形校舎は1950年代に全国的に流行したが、神戸市内には2校残るのみ。まるで光の井戸のような中央のらせん階段の天井の小さな穴からは小さな光がこぼれる。[箕岡通・MAP ⑳]



神戸高校の銃眼

神戸高校の校舎は1938年（昭和13）旧神戸一中の校舎として建設。建学精神やイギリスのパブリックスクールの教育理念を表現するモダン・ゴシック様式で、2002年（平成14）に新校舎に建て替えられた際、正面玄関部分が保存された。屋上やベランダに欠き取られた穴は銃眼と呼ばれ、ヨーロッパの古城などに見られる。[城の下通・MAP ㉑]

樹木がおおう穴

道の脇に植えられた樹木が成長し、やがて頭上をおおうトンネルのような空間をつくりだす。



桜のトンネル

灘区の桜の名所として知られる桜のトンネル。昭和20年代に地元住民によって植えられ、約400メートルの坂道沿いに約70本のソメイヨシノが並び、春にはアーチをつくる。ここを通るバスは歩行者だけでなく、頭上の桜にも注意しなければならない。

[国玉通・MAP ②]



緑のトンネル

王子動物園と王子弓道場の間の東西通路には格子状のアーチが架けられている。初夏から秋にかけて枝葉が木陰をつくり緑のトンネルになる。暑い夏には少しひんやりとした空気が流れる知る人ぞ知る清涼スポットだったが、王子公園の再整備により姿を消す。

[青谷町・MAP ③]



摩耶山
①②

六甲山
⑥

表紙写真[摩耶ロープウェー星の駅]
裏表紙写真[福住通]

灘だいたいマップ

今回の撮影スポットのだいたいの場所です。
あえて細かい場所は示していません。
ぜひ、みなさんで確かめに行ってください。

編集後記

▼昔より街の穴が減っているような気がするけど気のせいだろうか？

▼「あな」を通してみえてくる、見知った灘と、見知らぬ灘と。

▼あな、と言っても幅広い種類があるものだね、と感じた編集作業でした。

▼まちに存在している「穴」はとても様々で、背景にある物語を知ること、また見え方も変わりました！

▼最近、街を歩くとマンホールをチェックしてしまいます。「なだだね」を見てから出掛けると、きっとあなたも気になるはず。

参考資料

「灘百選～灘の魅力再発見～」(灘区民まちづくり会議)

「なだ 灘神戸市編入五十周年記念誌」(灘三ヶ町村神戸市編入五十周年記念行事協賛会)

「灘の歴史」(灘区 80 年史編集委員会)

「六甲山とともに 50 年 六甲ケーブル開業 50 年史」(六甲摩耶鉄道株式会社)

「神戸市内の防空壕調査」(神戸市)

「神戸市交通局六十年史」(神戸市交通局)

協力

株式会社サザンモール六甲
神戸大学都市安全研究センター
神戸市水道局

なだだねバックナンバー

Vol.1「みち」(2022 年発行)
Vol.2「みず」(2023 年発行)
Vol.3「いし」(2024 年発行)

PDF はこちら



なだだね Vol.4

2025 年 3 月発行

企画・編集 灘百選の会

発行 神戸市

問合せ 灘区役所地域協働課

灘区桜口町 4-2-1

TEL 078-843-7001

FAX 078-843-7034

リサイクル適性

この印刷物は、印刷用の紙で
リサイクルできます。

